

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 11月 25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100116		
法人名	社会福祉法人 広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明牛田新町		
所在地	広島市東区牛田新町3丁目20-15 (電話) 082-222-3223		
自己評価作成日	平成28年10月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100116-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年11月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

事業所と同じ敷地内に保育園が立地しており、入居者の方と園児とのふれあいの機会を定期的に設けています。また、隣接するグループホーム・保育園と共に交流行事（誕生日会・仏参）を毎月実施し、入居者の方に楽しんで過ごして頂けるよう努めております。さらに敷地内での活動だけではなく、近所の公園などへ園児さん達と散歩に行くなど、地域への外出も定期的に行っております。盆踊りや祭りなどの地域行事への積極的な参加により、地域の一員としての存在・役割を果たすよう努めております。また共用型のデイサービスを開設しており、入居者の方々とデイサービスの方々との交流により、お互いが刺激になるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

アストラムライン不動院前から程近く、静かな住宅街にある当グループホームは同敷地内に保育園を有し、園児達の遊ぶ声や活動の様子をすぐ傍に感じながら、世代を超えたあたたかみのある自然なかたちでの交流を続け、皆で穏やかな生活を育んでいる。法人全体で多くの福祉施設を配しているこの地域で、利用者、家族、関係者共々が等しく大切にされ、利用者が安心してその人らしく暮らし続けられるよう、街ぐるみで取り組んでいる。法人で行う光明シルバー祭や、グループホームで開催する「地域ふれあいの集い」の恒例行事には、地域住民やボランティアをはじめ多くの参加を得て、一緒に笑い、腕をふるった料理を味わい、共に楽しめるイベントとして地域に根づいている。また、利用者・家族の思いを大切にしながら寄り添い、ニーズに合わせたスキルアップを重ね、より良いケアを目指して日々努めている事業所である。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっている。	法人全体の理念である三宝一如と、グループホームの理念を朝礼で唱和するなど職員間で共有しており、地域密着を目指し、行事等を通じて理念の実践に繋げている。	利用者本位のみならず関係者や家族、スタッフを等しく大切にする理念を基に、グループホームの目標も定め、毎朝礼時に唱和し、共有している。日々の流れの中で意識付けをしながら、月1回のミーティングで、心構えなどの見直しを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の季節行事（秋祭り・盆踊り等）に参加させて頂いたり、回覧板等で地域のことを知らせて下さったり、何かあった時は声をかけて頂いている。老人会の施設見学や年1回「ふれあいの集い」には、地域の方々に来所してもらい交流を深めている。	保育園児と昔話を交えながら折り紙をしたり、季節毎の町内行事に参加するなど、自然なふれあいを日常的に行なっている。特に、毎月合同で開催する誕生日会には園児達と一緒に写真を撮ったり、お祝いをして、和やかな交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法等を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事・法人行事へ参加することで、地域の方々との交流を通じての地域との繋がりを実感して頂けるようにしている。事業所内に認知症アドバイザー有資格者が在籍しており、地域包括支援センターと協力して、地域を対象としてサポーター養成講座を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の開催を通じて、御家族・民生委員・地域包括支援センター・消防署の方々のご意見と助言を取り入れて、サービス向上に努めている。さらに、グループホームでの活動内容の報告や、地域の情報を共有している。	二か月毎に開催される当会議には、各方面からの参加を得て意見交換され、情報を共有している。またその議事録は丁寧にまとめられ、家族他にも閲覧可能となっている。	将来の展望や見解を深める為にも、ニーズに合わせた参加しやすいテーマづくりの工夫などで、参加メンバーや会議内容の充実を更に図る取組みに期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取組んでいる。	法人全体の防災意識が高く、常日頃より避難訓練には力を入れている。毎月設定を変えて行っており、いざという時にも柔軟な対応ができるよう日々意識を高めている。また消防署との連携や指導を受け、ご利用者の安全確保に努めている。	日頃から相談や意見交換を密に行い、特に定期的な避難訓練にはアドバイス他を得るなど連携を深めている。職員が認知症アドバイザーとして講座やオレンジプランに関する交流を地域住民と行う等、積極的に協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関には施錠はしていないが、自動ドアに工夫を施し、モニターによる見守り体制を整えている。各階のベランダに出る扉は施錠はあるが、状況に応じて鍵を掛けることなく、ご利用者が自由に出入りできるようにしている。施設内研修を実施し、身体拘束に関する情報を職員全体で共有している。	現在、センサーも含め身体拘束はしないケアに努めている。安全対策として、不具合を未然に防ぐ工夫があり、なるべく制約を加えない、自然な見守りによる支援を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人全体の施設内研修を通じて、高齢者虐待防止法等の虐待に関する情報を共有している。さらに事業所内においては、ご利用者の身体状況の変化や不適切な介助方法に関して職員同士で注意を払い、互いに確認する体制を整備している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修や地域包括支援センターとの連携を図り、実際にご家族の方が成年後見制度の手続きをされた時に協力させていただいた経験がある。今後も、ご家族の要望があれば全面的に支援する方針にある。また、定期的に外部研修に参加し、円滑に支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約及び解約時に、重要事項の確認・説明を行い、ご家族の理解を得よう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来所された際は、職員側から声かけを行い、ご利用者に対しての気づきや要望などをお聴きし、プラン等に反映させている。また運営推進会議や各ユニット入口に意見箱を設置しており、年1回、家族会開催により、ご家族や外部の方の意見・要望を聞かせて頂き、事業所運営に反映させている。	家族会が年1回開催され、二階リビングにて昼食をとりながら、年間の様子を話し合う機会を設けている。面会時や担当者会議においても意見、要望を伺い、各々のケアに反映させている。今後はより多くの意見収集のため、雰囲気づくりにも努めたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所内において、環境・行事・事故防止に関する委員会を設置し、定期的に話し合いをする機会を設けている。管理者が現場に入り、状況を確認した後、実際に職員から直接意見や提案を聞き、運営に反映させている。	日々、担当スタッフからの情報を申し送り時に伝達し、他の職員からの見解も取り入れながら、個別ケアに繋げている。その結果、排泄に関してパッドのあて方について改善されたり、通院介助の際の思いの汲取り方に反映された例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談やコミュニケーションを通じて、職員一人ひとりの介護観や目標を確認し、日々のやりがいを持てるよう努めている。また、個々のアイデアや工夫などの意見を汲み取り、フロアで検討し、実践につなげることができる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者が実際に現場に入り、職員一人ひとりの介護技術のレベルや接遇面の関わり方などを把握し、管理者が率先して手本になるよう努めている。また職員とのコミュニケーションを大事に考えており、管理者と職員との距離を縮めることを重要視し、働きやすい職場作りを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的に施設外研修に参加し、他事業所の取り組みや、地域の方々との意見交換での意見等を参考に、サービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者・ご家族・関係機関と密に連携を図り、基本情報・アセスメントを早期に共有し、理解するよう心がけ、ご利用者の悩みや願望、ニーズなどを把握し、少しずつ距離を縮め、ご利用者に安心感のある居場所であるよう、働きかけに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学・契約の際に、ご家族の立場を理解し、共感する姿勢を基本に支援している。困り事や不安感を少しでも軽減して頂けるためにも、時間をかけて関係を構築するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者にもし何かあった場合を想定して、常日頃より医療機関や当法人の他事業所との連携を密にするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者の状態が厳しくなっている状況の中、介助に苦慮する面もあるが、介護内容チェック表を作成し「できること」を見つけ、ご本人の喜びに繋げ、暮らしを共にする関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設を自宅としてとらえ、ご家族が出入りを遠慮されないよう努めている。来園時には、一緒にお茶を飲んでいただいたり、ご家族の方にも一緒に楽しんでいただけるよう努め、共に支えていく関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	法人行事、施設行事を通じて、ご利用者のご家族、友人・知人、地域の方々にも来所していただけるよう努めている。ご家族の協力を得て、行きつけの美容院や墓参りなど、外出を支援するよう努めている。また外出先として、ご利用者の思い出の場所に、一緒にドライブすることもある。	元利用者の家族が、二胡の演奏ボランティアで来訪したり、通院の帰りに以前の仕事先へ立ち寄り、懐かしい会話を楽しむこともある。また、かかりつけ医院の待合室での会話など、馴染みの人たちとの関係性を大切に継続している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペースを活用し、日々、ご利用者同士が関わりを持つためにも、率先して職員が間に入り、話題を提供するよう努めている。そのためには、日頃より職員間で時事情報や天気などの話題を、自発的に収集するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	地域行事などを通じて、常に関わりを大切にして、相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	外出時や散歩時などに、1対1でコミュニケーションを図ることを心がけており、その際に、今の生活満足度や今後の意向などを把握するよう努めている。意思表示が困難な方には、表情や様子をみて把握するように努めている。	日頃の活動時には一人ひとりに寄り添い、ふれあいの中でその思いや意向を汲み取りながら、現状を報告書にまとめ、ケアに活かしている。家族へもその報告書を送付し、毎月の様子を伝え、コミュニケーションを図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者との日常会話やご家族からのお聞きした情報を職員間で共有し、統一したサービス支援に努めている。また医療機関などの関係機関からの情報収集を行い、入所利用までの経緯や生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月の現状報告書を作成を通じて、ご利用者の抱える課題などを抽出・分析することで、現状の把握につながっている。また職員に対して意識向上を目的として、ご利用者ごとに担当を設けており、受持ちのご利用者の要望や介助方法・支援内容を把握する体制を整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族・必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者ごとに担当制を設けており、介護計画をベースに「介護内容チェック表」の様式を作成し、毎日、職員がモニタリングを行っている。またケアマネジャーが、そのチェック表を基に、総合評価を実施している。年2回を基本に、介護計画の見直しを行っている。	担当スタッフが日々知り得た情報を、モニタリングシートなどに記し、個別ケアに活かしている。細やかなモニタリングを重ねた結果、本人の歩行訓練を兼ねてあえて遠い方のトイレを使用するようにしたり、廊下に貼られた写真を見て、自分が写っている話につなげる工夫をするなどのケアプランが実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録の他、申し送りやひやりハットでの情報を共有し、現状のサービス内容の見直しを実施している。「できること」の把握に努め、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者・ご家族のニーズに応じて、事業所として、できる限りの範囲で柔軟な支援を提供できるよう努めています。また、そういった場合にはご家族の協力を得て取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	隣接する保育園の園児さんとの触れ合いや、地域行事に参加することにより、生活のメリハリを持ていただき、楽しく生活を送って頂くよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	地域の協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の往診がある。また希望があれば、週1回歯科医の往診も可能である。また必要に応じ、電話連絡により、相談や指示を仰ぐ対応も行っている。急な体調不良や発熱時には随時受診を行い、対応しています。	内科は月一回、歯科は週一回の訪問診療があり、健康管理されている。眼科、皮膚科他への通院や市民病院への定期検査などにも職員が同行支援を行い、情報共有している。こまめな手洗いやうがいの実施に努めたり、感染症対策にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	健康チェックの他、身体状況について把握し、気づきなどを随時報告し、看護職員の指示のもとに対応し、個々のご利用者に合わせるように支援している。状況により、受診や主治医への報告・相談を速やかに行い、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、またできるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院を目指した支援を行うためにも、入院先の主治医・看護師との連携を密にとり、入院中の経過や状況などの情報を共有するよう努めている。また、ご家族と話し合いを随時行い、退院後の支援について方向性を随時確認するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重症化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用後、重度化した場合はその都度、家族と方向性の話し合いの場を設け、確認をしている。終末期に関して、事業所でできる事の説明及び意向確認書作成を行っている。可能な限りグループホームで支援し、医療行為を必要とする場合は、医療機関（かかりつけ医・訪問看護ステーション）と連携しながら対応している。	重度化した場合について、本人、家族の意向を確かめながら、出来る限りその要望に沿えるよう職員間でも共有し、意識を高めている。今のところ、実際の経験はないが、医療機関のバックアップ体制にも配備し、看取りに向けた支援を行っている。	家族や関係者へのアプローチを面会時や家族会、運営推進会議の中でも行うなど、より分かりやすい説明を加えながら、各々の意向に沿った最期の迎え方についてチームで向き合い、ブラクティカルに、個々の思いに寄り添うケアにつなげられるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修やマニュアルを通じて、緊急時の対応を職員個々で確認しています。また、急変や事故発生時は振り返りの意味を込めて、一連の対応を月1回のミーティングを活用し、職員全員で周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	隣接する保育園、グループホームと共同で、月1回の避難訓練を実施し、常日頃から危機管理を心がけている。火災発生場所や状況設定を随時変えることで、設定に応じた柔軟な避難訓練体制を築いている。また夜間想定避難訓練も随時実施している。	法人全体で防災意識も高く、隣接の保育園ほかと共に、合同避難訓練などを定期的に行い、消防器具の使用法や避難経路の確認をしている。「災害相互応援協力協定書」を交わし、地域の一時避難場所となっているため備蓄をはじめ、地震・土砂災害等、あらゆる事態に備えて協力体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人研修を行い、言葉使いや声かけの仕方など、職員全体で意識し合っております。また職員同士で互いに注意し合える体制を整備している。入浴の際は必要に応じて同姓介助で対応し、羞恥心への配慮も行っている。ご利用者がこれまで生きてこられた人生を尊重し支援するよう努めている。	定期的な研修はもとより、日頃から職員間で話し合い、お互いに注意し合うなど、スキルアップを図っている。相手の立場に立って、されて嫌なこと等を自分に置き換え考えてみたり、人格や尊厳を損なわないような声掛けや、タイミングに留意し、支援するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話を通じて本人の要望を確認し、選択により、自己決定して頂くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか希望にそって支援している。	ご利用者のペースより、行事等で時間的な問題から、事業所側のペースになりがちであるが、参加・不参加はご利用者の希望に沿って、個々に支援している。また、食事の提供も範囲内において、体調に応じて時間を遅らせるなどの配慮に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	普段はご利用者の好み等もあり、ご本人に任せている。行事で外出する場合は、その行事に合わせた身だしなみ、整容を実施している。ご家族との外出においては、ご家族好みの対応をしている。ご家族が外出の服等を持参されることもあり、おしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝と日曜日の食事は、職員の手作りで提供しております。昼食と夕食は管理栄養士の監修のもと、厨房で調理したものをグループホームで盛り付けを行っており、その際、ご利用者にも手伝って頂く支援をしている。おやつを手作りする際には、ご利用者と一緒に盛付け・食器洗い等の片付けもしていただいている。	管理栄養士の監修のもと、栄養バランスの取れたメニューでの食事提供で、朝食と日曜日は職員手作りで提供している。時には、ホットプレートでのおやつ作りやお正月の重箱の盛り付けなども一緒に楽しみながら支援している。今後は、家事の役割分担として、調理の手作業も手伝っていただく方向で検討している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援し ている。	ご利用者一人ひとりに合わせ、就 寝して頂いている。また、昼夜逆 転にならないよう、日中は無理の 無いよう体調に応じて運動やレク リエーションを実施し、夜間に安 眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。	服薬マニュアルに従い、確認を徹 底し、看護師と連携をとりつつ、 服薬事故の無いよう努めている。 また内服変更や頓服薬などの際は 、ご利用者の変化に注意するよう 努めている。薬の情報は一つのフ ァイルにまとめており、いつでも 確認できるよう管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割・嗜好品・楽 しみごと・気分転換等の支援をし ている。	レクリエーションを実施することで 、集団での楽しみが個人の楽しみ につながっている。ご利用者個人 の楽しみも取り入れていく支援も 必要性があり、個別の対応などの 支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把 握し、家族や地域の人々と協力し ながら出かけられるように支援し ている。	施設でイベントを企画、立案し、 定期的に外出できるよう配慮して いる。また隣接する保育園の園児 との交流があり、一緒に近隣に外 出するなどの支援も行っている。 本人の希望により、ご家族と協 力し、外出を支援することにも 努めている。	日頃から近くのスーパーへ買い物 に出かけたり、不動院へお参りに 行くなど、散歩も含め外気に触れ る機会がある。広島城の菊花展を 観にドライブをしたり、意向に沿 った支援をしている。今後は近所 の公民館に出かけて、個々の趣味 を活かす工夫も視野にいれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひとり の希望や力に応じて、お金を所持 したり使えるように支援している。	原則、金銭に関してはご家族が管 理されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者自身から要望があった際は、事業所の電話を利用して頂くなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者と職員とで季節を感じていただけの物を作成し、共用空間である廊下、入口等に展示している。所々に花を飾ったり、工夫している。廊下に設置したソファで寛いだり、ベランダには洗濯物を干してあり、家庭的な生活感がある。また、園庭で遊ぶ園児の元気な姿や声が聞こえる環境である。	二階、三階共に、ゆったりしたリビングに続くベランダからは、隣の保育園が見えて、園児たちの遊ぶ様子を手に取るように伺えるスペースとなっている。廊下の壁などに利用者と園児が並んで撮った写真や、季節毎のはり絵作品他を飾り、和やかな雰囲気づくりに配慮している。掃除にも留意し、清潔を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファ、テーブルの配置を考慮しながら、くつろげる空間作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様の協力を得て、使い慣れたものや、プレゼント、花などを置き安全に考慮しながら居心地の良い居室作りをしている。ご入居にあたり、なじみの物を持ってきて頂くよう説明を行っています。	ベッド、エアコンが備え付けられ、白を基調とした明るい居室である。個々の好みや趣味、趣向に合わせ、家具調度品などを持ち込んでいただき、落ち着いてすごせる空間づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全確保に努め、利用者の行動を制限しないよう、工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田新町

作成日 平成28年12月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議参加者が固定化しており、内容をより充実したものにするためにも幅広い参加が必要。	運営推進会議の参加者数を増加させる事と幅広い分野からの参加を目指す。	地域の方や関係各所・ご家族様に対して、開催案内状の配布及び関心度の高い会議内容を検討・実施していく。	6 か月
2	33	看取りのニーズが高まっている中、看取りに関しての方針が明確になっていない。	看取りの必要性を感じており、方針・同意書等の作成と看取りに対する職員の意識向上を目指す。	看取り方針・書類関係の整備を行い、利用者様とご家族様の意向調査を行い把握する。	6 か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。